

## VI. 自殺対策について（問 15～問 17）

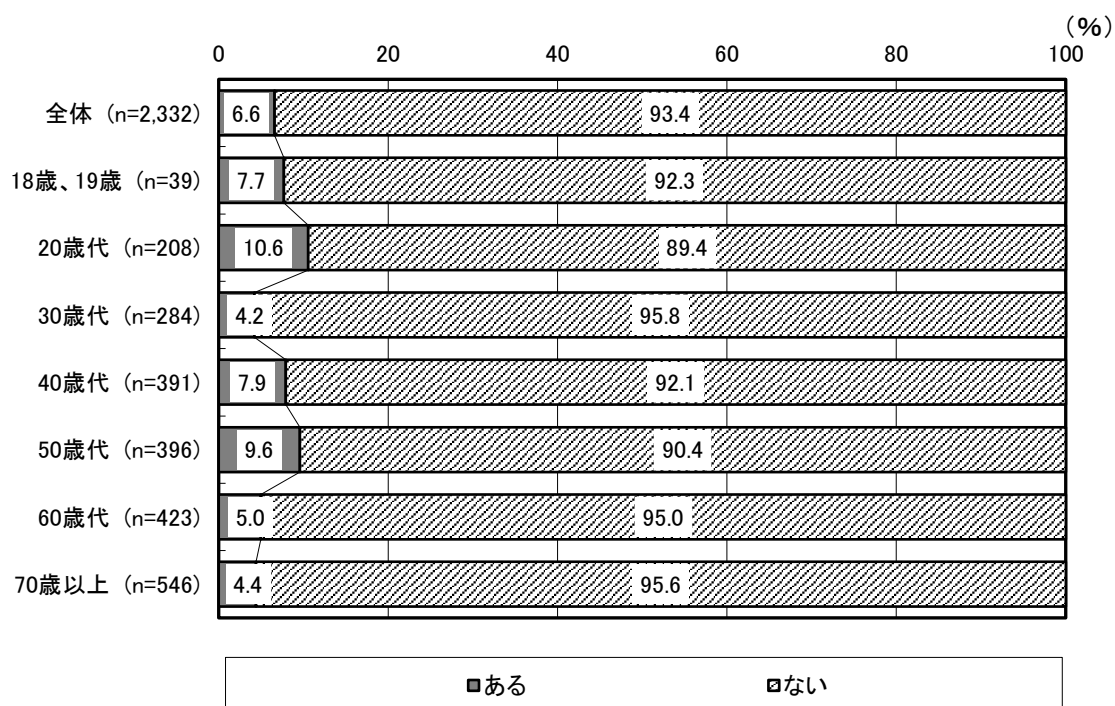
【問 15】ここ 5 年以内で、身近な人（家族、友人）から「死にたい」という相談を受けたことがありますか。（n=2,332）

### （1）全体的傾向

「ある」と回答した人の割合が約 7%で、「ない」と回答した人の割合が約 93%となっている。

### （2）年代別にみた特性

20 歳代と 50 歳代で、「ある」と回答した人の割合が約 10%～11%となっている。  
一方、30 歳代と 60 歳代以上で「ある」と回答した人の割合が約 4%～5%と、他の年代と比べ低くなっている。



<問 15 で「ある」と回答した人に伺います。>

【問 16】相談を受けたのち、あなたはどこかにもしくは誰かに相談をつなぎましたか。  
(n=154)

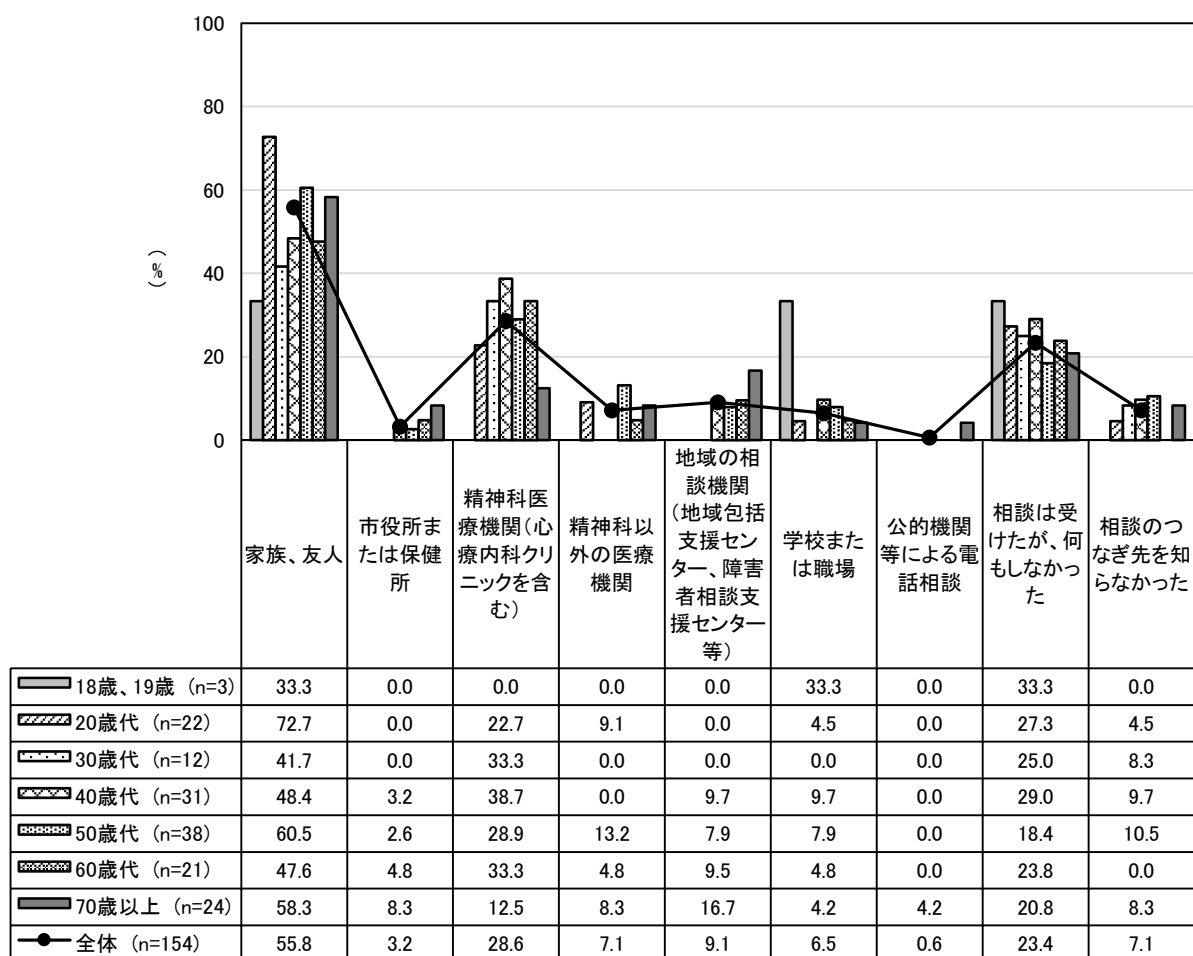
(1) 全体的傾向

「家族、友人」と回答した人の割合が約 56%と最も高く、次いで「精神科医療機関（心療内科クリニックを含む）」（約 29%）、「相談は受けたが、何もしなかった」（約 23%）と続いている。

(2) 年代別にみた特性

各年代とも、「家族、友人」と回答した人の割合が最も高く約 33%～73%となっている。

70 歳以上で、「地域の相談機関（地域包括支援センター、障害者相談支援センター等）」と回答した人の割合が約 17%となっており、他の年代と比べて高くなっている。



【問 17】自殺を予防する対策の中で特に重要だと思われる対策はどれですか。（複数回答：n=2,288）

（1）全体的傾向

「うつ病、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発の推進」と回答した人の割合が約 43%と最も高く、次いで「子ども、若者に対する自殺予防対策の推進」（約 27%）、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」（約 25%）と続いている。

（2）年代別にみた特性

20 歳代以上で、「うつ病、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発の推進」と回答した人の割合が約 39%～46%と最も高くなっている。

18 歳、19 歳と 20 歳代で、「長時間労働の是非等の労働環境の整備の推進」と回答した人の割合が約 40%～43%となっており、年代が低くなるほど割合は高くなっている。

また、「かかりつけ医への相談の充実」、「生活困窮者への対策の推進」、「高齢者への心の健康づくり対策の推進」と回答した人の割合は、70 歳代で高くなっている。

